

報道資料

マルチチャンネル同時ハイパワー出力の「ダイレクトエナジーHD アンプ」初となる 11ch モデルをラインアップ
 スピーカーの再生条件をそろえ、理想の 3 次元サラウンド音響を実現する AV レシーバー 3 機種を発売
 ～ハイレゾ音源などのネットワーク経由のオーディオ信号を低ジッターで高音質再生する新開発「PQFA」を搭載～



【SC-LX901(B)】



【SC-LX801(B)】



【SC-LX701(B)】

商品名	型番	希望小売価格(税別)	発売予定時期
AV レシーバー	SC-LX901(B)	410,000 円	9 月上旬
	SC-LX801(B)	350,000 円	
	SC-LX701(B)	233,000 円	

オンキヨー&パイオニアマーケティングジャパン株式会社(所在地:東京都中央区、代表取締役社長:池田 達史)は、マルチチャンネル同時ハイパワー出力が可能な「ダイレクトエナジーHD アンプ」を搭載し、話題のオブジェクトオーディオ*1“Dolby Atmos® *2”や“DTS:X*3”を理想的に再生するパイオニアブランドの AV レシーバー「SC-LX901(B)」、「SC-LX801(B)」、「SC-LX701(B)」の 3 機種を発売します。

本機は、当社が提唱する隣り合う全てのスピーカー間でステレオフォニックを実現する“Multi-Channel Stereophonic Philosophy”に基づく設計により、オブジェクトオーディオ方式の“Dolby Atmos”、“DTS:X”で提案されているさまざまなスピーカーアレンジに対応できる 11ch(SC-LX801(B)、SC-LX701(B)は 9ch)*4 の同時ハイパワー出力が可能な「ダイレクトエナジーHD アンプ」を搭載しています。また、高精度の音場補正を行う「MCACC Pro」*5 により、臨場感のある豊かなサラウンド再生を可能にする“Dolby Atmos”、“DTS:X”に必要なスピーカーの再生条件をそろえることができるので、オブジェクトオーディオが理想とする全方位からリスナーを包み込むサラウンド音響を実現します。さらに、新開発「PQFA」(Precision Quartz for File Audio)により、ネットワーク経由のさまざまなオーディオ信号を高精度クロックで低ジッター処理することが可能で、ハイレゾ音源やインターネットラジオなどに加え、Wi-Fi や Bluetooth®無線技術を介したワイヤレス再生も一層の高音質で楽しめます。

【主な特長】

1) マルチチャンネル同時ハイパワー出力を実現する「ダイレクトエナジーHD アンプ」を搭載

- ・高いスピーカー駆動力と音質に定評のある「ダイレクトエナジーHD アンプ」を搭載しており、「SC-LX901(B)」では初めて 11ch(880W)同時ハイパワー出力を実現(SC-LX801(B):9ch(770W)、SC-LX701(B):9ch(760W))しました。話題のオブジェクトオーディオ“Dolby Atmos”や“DTS:X”のマルチチャンネル 3 次元音響を迫力のあるサウンドで楽しめます。
- ・これまでの「ダイレクトエナジーHD アンプ」設計を通じて蓄積された高音質設計のノウハウに基づき、基板のパターンニングとレイアウトを一新し信号経路の最短化・最適化を達成することで、潜在的に存在するノイズの水準を大きく低減し、一層の高音質再生を実現しています。
- ・対応チャンネルの全てで、幅広いスピーカーインピーダンス(4Ω～16Ω)に対応しており、特別な設定や切り替えをすることなく、さまざまなインピーダンスのスピーカーと接続できます。

2) 高品位なサラウンド再生を実現する自動音場補正技術「MCACC Pro」&「Reflex Optimizer」を搭載

- ・「周波数」と「音圧レベル」の補正要素に「時間軸」を加え、付属の集音マイクを使った「3次元音場補正」を行うとともに、「デュアル サブウーファーEQ補正」機能による低域の再現力の向上により、視聴環境に左右されることなくサラウンド再生の理想的な音場を実現します。
- ・スピーカーシステム内で発生する低音と高音の時間的なズレや、チャンネル間で異なる位相特性を測定・補正する「フルバンド・フェイズコントロール」機能により、明確な音像定位と優れた音の広がりを持つ音場を楽しめます。
- ・ソースに由来する低音(LFE成分)のズレを全自動でリアルタイムに補正する「オートフェイズコントロールプラス」機能により、豊かでキレのある低音と中高域をクリアに再生し、チャンネル間の自然な音のつながりを実現します。
- ・「Reflex Optimizer」を搭載しており、ドルビー・イネーブルド・スピーカー^{*6}使用時に、天井に反射する帯域の音とスピーカーから直接聴こえる帯域の音の間のわずかな時間差によって生じる位相ズレを補正します。ドルビー・イネーブルド・スピーカーを使うことで、その他のスピーカーと一体となった最適な音場空間を実現します。

3) 話題のオブジェクトオーディオ“Dolby Atmos”と“DTS:X”に対応

- ・位置情報やタイミングなど音の動きの情報をメタデータとして付加することで、これまでになくリアルな音の移動を再現し理想的な立体音場を実現する、話題のオブジェクトオーディオ“Dolby Atmos”と“DTS:X”の再生に対応しており、臨場感のある豊かなサラウンド空間を実現します。

4) ハイレゾオーディオやネットワークオーディオを低ジッターで高音質再生する新開発「PQFA」を搭載

- ・ネットワークオーディオの信号経路で発生し音質劣化の要因となるジッター(時間軸上のゆらぎ)を高精度クロックの制御によって大幅に低減します。ネットワークを経由するさまざまなオーディオ信号(有線ネットワークやUSBメモリーによるハイレゾ音源、インターネットのストリーミング音声、インターネットラジオなど)を高音質に再生します。Wi-Fi や Bluetooth[®]無線技術によるワイヤレス接続の場合にも有効なので、手軽に高音質再生を楽しめます。

5) 世界最高水準の録音スタジオ「AIR Studios」が認定した音質チューニングを実現(SC-LX901/LX801)

- ・世界最高水準の録音スタジオとして、多くのアーティストやクリエイターから信頼を得ている「AIR Studios」のプロのサウンドエンジニアと綿密な音質チューニングを行うことで、アーティストやクリエイターが求めるクオリティーを満たした機材としての認定を受けており、フロントパネルに「AIR Studios」の紋章が印されています。

6) 4K/60p/4:4:4 映像信号と“HDR”信号の伝送や最新の著作権保護規格“HDCP2.2”に対応

- ・4K/60p/4:4:4 映像信号の伝送と著作権保護規格“HDCP2.2”に対応した HDMI[®]端子を装備しており、4K 映像機器と接続することで、高画質な映像を楽しめます。
- ・最新の“HDR (High Dynamic Range)^{*7}”信号と“BT.2020^{*8}”信号の伝送に対応しており、対応の 4K 映像機器と接続することで、より高画質な映像を楽しめます。
- ・BD プレーヤー“BDP-LX シリーズ”の開発で培った超解像 4K 技術を取り入れ、HD 画質のコンテンツをアップスケーリングすることで 4K 映像信号の画質で楽しめる「Super Resolution」を搭載しています。

7) スマートフォンを使って多彩な音楽を楽しめる“Google Cast[™]”とインターネットラジオ“radiko.jp”などに 対応

- ・“Google Cast^{*9}”に対応しており、お手持ちの Android スマートフォン、Android タブレット、iPhone、iPad、Windows[®] PC、Chromebook や Mac にインストールした“Google Cast”対応音楽アプリから、簡単操作でお気に入りの楽曲を本機に送信できるので、さまざまな音楽を手軽に楽しめます。
- ・インターネットラジオ“radiko.jp”、“TuneIn”に対応^{*10}しており、国内はもちろん、世界中のさまざまなジャンルのラジオを手軽にいつでも楽しむことができます。

8) 多彩なハイレゾ音源の再生に対応

- ・FLAC/WAV/AIFF/Apple lossless ファイル形式(2ch)のハイレゾ音源(192kHz/24bit)に加え、DSD ファイル(11.2MHz まで)の再生に対応^{*11}しています。マルチチャンネルコンテンツの Dolby True HD ファイルの再生にも対応^{*12}しており、多様なハイレゾ音源を再生できます。

9) Wi-Fi・Bluetooth[®]無線技術の搭載により、快適で高音質なネットワークオーディオ再生を実現

- ・5GHz(11a/n)、2.4GHz(11b/g/n)のデュアルバンドに対応した Wi-Fi 接続により、途切れにくい伝送を実現することで、さまざまな楽曲をワイヤレスで楽しめます^{*13}。Bluetooth[®]無線技術による楽曲のワイヤレス再生が可能で、スマートに音楽を楽しめます^{*14}。

10) その他の特長

- ・AirPlay に対応。
- ・操作性を向上し、初期設定も分かりやすい GUI(グラフィカルユーザーインターフェース)を採用。
- ・コントロールアプリ「iControlAV5」に対応^{*15*16}。
- ・FM/AM チューナー(40 局プリセット)を内蔵。

- ※1 オブジェクトを用いた多次元サラウンド音響。従来のチャンネルベースのサウンドトラックに、制作者の意図(音の動きや配置)をメタデータとして取り込んだ独立した音響要素(オブジェクト)をミキシングし、重ね合わせることで自在な音の配置と動きを実現します。
- ※2 ドルビーラボラトリーズが提案するオブジェクトオーディオの1種。“Dolby Atmos[®]”(ドルビーアトモス)は2012年に劇場に導入されて以来、ハリウッドのあらゆる主要製作スタジオに採用され、アカデミー賞を受賞した7人の監督、16人のサウンドミキサーをはじめ、映画業界で幅広く採用されている多次元サラウンドフォーマットです。
- ※3 米DTS社が2015年4月に発表したオブジェクトオーディオの1種。従来のチャンネルベースのサラウンド音声に音の移動情報や位置情報を重ねることで、平面的な音の移動だけではなく垂直方向の音の移動感も加わり、より立体的な臨場感を体験することができます。
- ※4 11ch: Left/Center/Right/Surround Left/Surround Right/Surround back Left/Surround back Right/Top Front Left/Top Front Right/Top Rear Left/Top Rear Right。
9ch: Left/Center/Right/Surround Left/Surround Right/Top Front Left/Top Front Right, Surround back Left/Surround back Right もしくは Top Rear Left/Top Rear Right。
- ※5 MCACC=Multi-Channel Acoustic Calibration System(自動音場補正システム)。「MCACC」は録音スタジオにおけるモニタリング手法と同一レベルの音場調整を行うことができる当社独自の音場補正技術です。
- ※6 ドルビーラボラトリーズが提案する家庭向け“Dolby Atmos[®]”用スピーカーの1つで、天井へ音を放射することでその反射音を天井からの音声として利用します。
- ※7 HDRとは、映像の最大輝度を拡張する技術。“ULTRA HD Blu-ray[™]”規格ではHDR技術を使用して、最大輝度を100nitから10,000nitに拡張。
- ※8 BT.2020とは、現在のBlu-rayなどで用いられるBT.709に比べ、2倍以上の広い色空間をカバーした映像フォーマット規格。
- ※9 ファームウェアのアップデートによる対応となります。準備が整い次第、詳細な日程や内容について、当社Webサイト(<http://www.jp.onkyo.com/>)でお知らせします。
- ※10 インターネットラジオを聴くには、インターネットサービスを提供しているプロバイダーとの契約・料金が必要です。「radiko.jp」の対応(聴取可能)エリア、対応放送局については、「radiko.jp」のサイト(<http://radiko.jp/>)をご覧ください。
- ※11 ハイレゾ音源のファイルフォーマットの対応は有線ネットワーク、またはUSBメモリーからの再生時になります。
- ※12 USBメモリーからの再生時になります。
- ※13 Wi-Fi規格に対応した無線LANのネットワーク環境が整っていること、およびWi-Fiでの接続が必要です。
- ※14 本機でBluetooth[®]無線技術搭載機器の音楽を再生するには、Bluetooth[®]無線技術搭載機器がプロファイル:A2DPに対応している必要があります。すべてのBluetooth[®]無線技術搭載機器との接続動作を保証するものではありません。
- ※15 App Storeから無償でダウンロードできます。使用に際しては、Wi-Fi規格に対応した無線LANのネットワーク環境が整っている必要があります。
- ※16 「iControlAV5」のAndroid版は、Google Playから無償でダウンロードできます。

- * 「Pioneer」および「Pioneer」ロゴ、「フェイズコントロール」および「フェイズコントロール」マークは、パイオニア株式会社の商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- * 本機は、「フェイズコントロール」技術を採用しています。本技術を適用した製品にはフェイズコントロールマークが付与されます。「フェイズコントロール」技術とは、ソフト制作時や再生時に発生する「低音のズレ」(時間の遅れ、および位相のズレ)を解消する技術です。
- * Dolby, Dolby Atmos, ドルビー、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの登録商標です。AACロゴはドルビーラボラトリーズの商標です。
- * DTS、そのシンボルおよびDTSとそのシンボルマークの組み合わせ、DTS:XおよびDTS:Xロゴは、米国および他の国々で登録されたDTS社の商標です。
- * Windows、Windowsロゴは、Microsoftグループ企業の商標です。
- * Apple、AirPlay、iPad、iPod、およびMacは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- * iPhoneの商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
- * App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
- * Android、Google Cast、は、Google Inc.の商標または登録商標です。
- * HDMI[®]は、HDMI Licensing LLCの商標です。
- * Bluetooth[®]ワードマークは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標です。
- * Wi-FiはWi-Fi Allianceの登録商標です。
- * “ULTRA HD Blu-ray[™]”はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。
- * その他の会社名、商品名、技術名、トレードマークおよび商号は、各社の商標または登録商標です。

【主な仕様】

	SC-LX901(B)	SC-LX801(B)	SC-LX701(B)
■オーディオ特性			
多チャンネル同時駆動出力 (1 kHz、T.H.D. 1%、8 Ω)	880 W(11ch 同時駆動時)	770 W(9ch 同時駆動時)	760 W(9ch 同時駆動時)
定格出力 (1kHz、1.0%、6 Ω、1ch)	200 W/ch(フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック、ハイト1、ハイト2)	200 W/ch(フロント、センター、サラウンド、ハイト1、サラウンドバック/ハイト2)	175 W/ch(フロント、センター、サラウンド、ハイト1、サラウンドバック/ハイト2)
実用最大出力(6 Ω、1ch)	340 W/ch		320 W/ch
■主な入出力端子			
HDMI 端子	8 入力(フロント:1、リア:7)/2 出力		
デジタル入力	同軸 2 系統/光 3 系統		
アナログ(オーディオ)入力	3 系統(PHONO 含む)		
アナログ(AV)入力	4 系統		
オーディオ・プリアウト出力	11.2ch		
USB 入力端子	フロント 1 系統(iPod/iPhone Digital 入力対応)		
LAN 端子	1 系統(10BASE-T/100BASE-TX)		
Bluetooth®無線技術	○(対応)		
■その他			
外形寸法	435 mm (幅) × 185 mm (高さ) × 441 mm (奥行)		
本体質量	18.2 kg	18.0 kg	15.4 kg
消費電力	340 W	320 W	310 W
待機時消費電力	0.15 W(スタンバイ状態)/ 2.5 W(ネットワークスタンバイ ON 時)		0.15 W(スタンバイ状態)/ 2.0 W(ネットワークスタンバイ ON 時)

※ 詳しい製品情報は以下の製品のホームページをご覧ください。

<http://pioneer-audiovisual.com/components/avamp/sc-lx901/>

<http://pioneer-audiovisual.com/components/avamp/sc-lx801/>

<http://pioneer-audiovisual.com/components/avamp/sc-lx701/>

<http://pioneer-audiovisual.com/components/avamp/>